

平成二十五年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙は、オモテ面を書き終えたらウラ面に続けて書くこと。
- 四、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 五、解答時間は、一二〇分である。
- 六、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 七、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

問題

次の文章は、一九九〇年代に出版された仲宗根政善『琉球語の美しさ』の序に当たる部分である。読んで、後の設問に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

(仲宗根政善、『琉球語の美しさ』、ロマン書房、一九九五年、「序にかえて」 i ~ vii ページ)

問一 「方言」についての筆者の考えをまとめなさい。(四〇〇字程度)

問二 将来、国語教師となったあなたが「方言」を使っている子どもと出会ったとき、どのような態度で接したいと思いますか。あなたの考えを述べなさい。(六〇〇字程度)

平成二十五年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

出題の意図

素材文は、「琉球方言研究の父」と称される言語学者・沖縄方言学者、仲宗根政善（一九〇七～一九九五年）の遺稿集『琉球語の美しさ』の序章である。問一に関しては、昨今ことばは「コミュニケーションの手段」であるとしきりに言われ、便利なツールであるかのよくな捉え方がされているが、仲宗根はことばは「方言」を、みずからの命・生と結びつく内面的なもの（本文中に「深い執着」「深い生命感」といった表現がみえる）と捉えており、この点を、国語教育専修で小学校教師をめざそうとする受験生たちに読み取ってほしい。また問二に関しては、仲宗根が命や生とより結びつく自分自身のことばとして大切にしている「方言」は、現行の学習指導要領では共通語との対比において取り上げられつつ「それぞれの特徴とよさを知」ることが重要だと言及されており、多様な心・多様な発想・多様なことば等、子どもたちの多様さを受け入れ、それぞれの良さを伸ばすことを求められる小学校教師を志す受験生たちには、この問題についてぜひ具体的に考えてもらいたい。なお、問一・問二ともに、適切な文章力・論述力が問われることは、言うまでもない。